

ふるさと歴史散歩

〔第67回〕 道隆寺⑩

「考古学はロマンがある」とよく言われる。遺跡を発掘して地下から土器や石器などの遺物が出てくることがあるからだ。発掘現場で見物人の中から「ここからモノが出るのが、よく分かるものですなあ」と感嘆とも質問ともとれる声をかけていた。考古学者は、何でもないところは、余程のことがないかぎり、いきなり掘り進めることはない。考古学は人々が残した痕跡、例えば、貝塚、住居跡、古墳などの遺跡を研究し、人々の活動とその変化・推移を研究する学問である。だから発掘調査は、事前に地形や土地の表面をよく観察することから始まる。事前調査や文献などから得た資料から、どんな遺跡か、例えば、縄文・弥生時代のものか、寺院跡かなどと、だいたい見当をつけて発掘に入るが、実際には何が出るか分からないし、発掘の結果、何も出なかったこともある。かの国宝壁面古墳で有名な、奈良県明日香村の高松

塚古墳も普通の小さな円墳の調査であった。そして、ちつぽけな古墳を掘ったところ、飛鳥美人と呼ばれる極彩色の人物壁画を描いた石室が発見されたから、その発見は尋常でなかったらしい。

道隆寺の寺伝に、七堂伽藍の大寺院があったと伝えられているからには、現在の道隆寺付近には、遺跡のある可能性が充分考えられるのである。かつて道隆寺付近で古代の瓦が出土しており、また、発掘予定地の事前の試掘調査で古代の瓦が発見されたことにより、この地下に遺跡または遺構のあることが予想できた。

現地は、かつては水田として、また最近ではレジャー農園の畑として使われていたため、地形測量の結果、南北方向、東西方向においてほとんど高低差は見られず、等高線に沿ってきわめて平坦な面が作り出されていた。発掘前の現状写真撮影の済んだ後、発掘調査の開始は、どこを

どのように掘って行くか、調査区域（トレンチ）の設定が必要である。そこで東西に32m、南北24mの長方形の範囲をA、B、C、三本のトレンチを設定し、杭を打って縄を張った。そして、三本のトレンチの境界は最終的段階で壊されるが、それまでは地層を確認するためや、土砂運搬用の一輪車や作業員、調査員たちが通行するための幅1mの壁として残して置いた。またこうした作業に並行して平板とトランシットによる地形測量を実施した。

発掘は、つまるところ遺跡を壊すことなので、出来るだけ必要・十分な記録を取っておくことが大切なのである。

府中町文化財

保護審議会会長

横田 禎昭



道隆寺下遺跡の全景



正しいごみ出しにご協力を

府中町環境センター ☎ 286-3266



みんなで守ろう！ ごみ出しのルール

- ◆ごみは、必ず収集日の午前8時30分までに、決められたものを正しく分けて決められた場所に出してください。なお、収集日の前日や深夜にごみを出すことは、止めてください。
- ◆缶・ビン・ペットボトルは、中を洗ってください。ラベル・フタは、はがしてください。
- ◆ペットボトルは、普通ごみではありません。月に2回ある収集日に出してください。また、置き場所は、ごみステーションとは、違います。各地区で決められたリサイクルステーションの場所を確認してください。収集容器をリサイクルステーションに収集日の前日に設置します。

収集日や分別方法については、「平成21年度版家庭ごみの正しい出し方・ごみの収集案内」をよく読んで、間違わないようにごみを出してください。



「平成21年度家庭ごみの正しい出し方」配布場所

●役場（住民課・環境課）●鹿籠出張所●環境センター●府中公民館●南公民館●福寿館●ふちゅう情報プラザつばき館（イオンモール広島府中ソレイユ内）●くすのきプラザ